

【助成 41-44】

日米大学連携によるグローバル・シティズンシップ育成の理論的研究と開発

研究者 東京大学教育学研究科 教授 福留 東土

〔研究の概要〕

本研究は、スタンフォード大学と東京大学とが協働し、近未来のグローバル社会を担う人々を育成するための異文化間理解教育、およびグローバル・シティズンシップを育成するための理論的研究を行い、並行して教育プログラムの開発と実践を行うものである。本助成による1年の研究期間を通して、主に以下の4点にわたる成果を上げた。①両大学の交流を通じた大学の国際化の推進、②異文化間理解教育、およびグローバル・シティズンシップの育成に関わるコンテンツの開発と実践、③大学教育における多様性と包摂性の理論的・実践的検討、④異文化間理解を含めつつより広範な創造性・協働性の育成に関する大学教育の理論的・実践的検討。

〔研究経過および成果〕

概要で述べた4点の成果について説明する。

① スタンフォード大学と東京大学の交流を通じた大学の国際化の推進:

研究代表者が所属する東京大学教育学研究科とスタンフォード大学 SPICE (国際・異文化間教育プログラム) とは5年ほど前から継続的に交流と共同研究を進めてきた。日本の大学にとって国際化の成果とは、海外大学と競争し、それに伍す研究成果を生み出すことと捉えられる傾向がある。その重要性は否定できないが、そうした近視眼的視点が、国際化が生み出す他の効用を見落とす要因になってきた。本研究の基礎にあるのは、異国の研究者が相互の違いを理解しつつ、共通の問題関心に立って友好的関係を結ぶことである。そして、それによって形成される研究ネットワークに多くの研究者、特に若手研究者を参加させ、友好・協働を持続的なものとするのが重要である。本助成を通して強固になった研究プラットフォームはその存在自体が価値を持つと言える。

② 異文化間理解教育およびグローバル・シティズン

シップの育成に関わるコンテンツの開発と実践:

次に、上記プラットフォームに何を乗せるか。本研究のテーマであるグローバル・シティズンシップの育成、そしてそのために必要な異文化間理解教育のコンテンツが重要であり、本研究でその開発と実践を行った。SPICE では、関連する教育コンテンツを膨大に蓄積しており、その一部を教育プログラムとして実践しつつ、日米の視点から議論と検討を行った。具体的なコンテンツとしては以下が挙げられる。

- 歴史教科書の国際比較: 特に戦争に関わる各国の教科書記述の内容分析
- 東西の異文化を乗り越えた日系アメリカ人、および中華系アメリカ移民の苦難の歴史
- 大学・学校カリキュラムの西欧中心主義と多文化主義の葛藤とバランス
- 東西文化の交流および結節点としてのシルクロードの文化的・経済的・歴史的意義

以上はこれまでに SPICE が教育界に提供してきた教育コンテンツの一部に過ぎず、今後、他のコンテンツについても検討を重ねたい。

③ 大学教育における多様性と包摂性の理論的・実践的検討:

本研究テーマに深く関連するのが、日本の大学で近年重視されるようになった多様性と包摂性である。多民族国家の米国ではこの点について長い議論、およびその変容の歴史がある。2020 年代以降だけでも BLM の高揚とその後の反動という大きな変化がみられる。この実態について複数の研究成果を発表した。

④ 広範な創造性・協働性の育成に関する大学教育の理論的・実践的検討:

③の観点を含めると、異文化間理解教育はより広い観点から創造性・協働性の育成に繋がるものとなる。スタンフォード大学での交流から生まれた研究ネットワークと知見を元に同大学での高等教育の実践について多角的な観点から研究し、成果を発表した。

[発表論文]

1. 福留東土「日米大学連携による多文化理解教育とグローバル・シティズンシップ育成」日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター研究者交流会、2024 年 1 月。
2. 福留東土「米国におけるアカデミック・オートノミー—2020 年代の危機—」『IDE・現代の高等教育』662 号、2024 年、36-40 頁。
3. 中島夏子・福留東土「米国の学士課程教育における一般教育の意義と方策—スタンフォード大学の初年次新要件に注目して—」日本高等教育学会第 27 回大会、2024 年 5 月。
4. 田尾周一郎・福留東土・他「大学入学までの探究活動の体験と大学教育との接続を考える—新学習指導要領で学んだ 2025 年度新入生を迎えるにあたって—」大学教育学会第 46 回大会、2024 年 6 月。
5. 福留東土「デザイン思考に基づく大学教育—スタンフォード大学 d.school に関するケーススタディ—」大学教育学会第 46 回大会、2024 年 6 月。
6. 中矢礼美・福留東土・他「諸外国における平和教育カルチャー・マップ—高校社会科教科書に見る平和の描き方—」日本比較教育学会第 60 回大会、2024 年 6 月。
7. 中島夏子・福留東土「米国の研究大学におけるリベラルアーツの実現方策—スタンフォード大学を事例に一」日本比較教育学会第 60 回大会、2024 年 6 月。
8. 福留東土「米国高等教育における反 DEI の動向—諸州政府による法制化と大学による対応—」日本教育学会第 83 回大会、2024 年 8 月。
9. Hideto Fukudome, “Multiculturalism and Valuing Diversity in American Universities: Amid Political Transition” SPICE-CASEER Lecture Series on International and Cross-Cultural Education, 2025.1.
10. 福留東土「大学教育の未来像」『九州地区大学教育研究協議会発表論文集』、2025 年、7-16 頁。
11. 福留東土「学士課程教育における探究型・協働型学習の追究—多様性・包摂性との関係から—」『大学教育研究』第 33 号、2025 年、13-28 頁。
12. 福留東土「多様な学生が主体的に学び合う場としての大学教育を目指して」『名古屋高等教育研究』第 25 号、2025 年、45-57 頁。
13. 吉田翔太郎・福留東土「米国における DEI を巡る動向と大学の自治の危機」『高等教育研究』第 28 集、2025 年(掲載予定)。